

金城学院大短大 ○東珠実、静岡県立大井川高 大石美晴、名古屋文理短  
大 鈴木真由子、福山女学園大家政 守谷敏子、静岡大教育 村尾勇之

目的 本研究の目的は、第1報で述べた通り、アメリカ家政学会誌にみる家政学の研究内容が、歴史的にどのように推移してきたかを追求し、家政学の本質を探究するところにある。前報では、本研究の全体的な枠組、および学会誌目次にみる分類項目の時系列的変化とその類型化について明らかにした。これらの成果の上に立ち、本報では、まず今後の分析対象とすべき論文を明確化することを目的とした。続いて、対象論文のもつ年代別・領域別の属性に注目し、アメリカ家政学の研究内容の系譜について概観しようとした。

方法 本報で用いた資料は、前報で掲げたアメリカ家政学会誌 *Journal of Home Economics* と *Home Economics Research Journal* 全 788冊である。本報における分析過程は、次の通りである。①前報で明らかにした学会誌目次の構成に基づき、アメリカ家政学の研究内容の追究に特に重要と思われる分類項目を選択し、対象論文を特定した。②対象論文の総数を集計するとともに、10年毎の論文数を確認した。③各年代の対象論文を内容領域別に分類して各領域の構成比を求め、年代間の比較を行った。

結果 ①アメリカ家政学の研究内容の究明のために有用な論文は、Articles、Researchに属するもので、i) *Journal of Home Economics* における Research、General Interest、Features に含まれる論文と、ii) *Home Economics Research Journal* に掲載されている研究論文であることが明らかとなった。②対象論文の数量について、その全体的規模と時系列的動向の特徴を把握することができた。③対象論文の内容領域別の構成比は年代によって異なる傾向を有しながら推移していることが理解された。